



人(ヒト)から火音(ひと)へと 明るい兆しがなんともいえない♪

—66日間の祭り(たましいのかくじっけん)第三弾連鎖風景—

BY ころん

三度目の正直!三度目は定の日!!ホップステップジャンプ!!!ボクは三冊目の本『ころんのダイジョ〜ぶ(スートラ)』で過去の全てを燃やし尽くし、三回目の結婚で決定的な片割れと遭遇し、62歳の時にこの世に生まれ出た3人目の子、「兆」きざし、で自宅出産100%のエクスタシーを得た。そして今回、66日間の祭り(たましいのかくじっけん)第三弾で、心ゆくまでの破壊と創造、メルトUPただなかのいまここ。

2017年7月15日、祭りのオープニングの日の朝、ボクらの新天地、天空のなごみ茶屋(太一や)の裏山に秘すむ「北斗神社」での火起こしで、たかさんの人の目の前でボクの長年の火起こし史上初の失敗!!!をした。このボク史上初の火起こしの失敗は、今に成ってみれば、この66日間の祭りのハイライト、80人ものメンバーによる前代未聞の野外演劇、ボクの火起こしの神事から始まる『KAYA』に向かう序曲、だった。9月1日のリハ!2日の本番!!そして、3日の究極の本番!!!で、500人の観客の会場時空を、あ!!!!と千数百年前に翔す火起こし神事、への破壊序曲だった。

今回の祭りのメインテーマは二つ有って、一つは、新天地(太一や)の絶望的な崩壊寸前の建物を一気に蘇らせること、そして二つ目は、癌寸前の只中、手術を拒否して女力で元気になろうと決意した女友達、(麻由)ちゃんの子宮を蘇らせること、だった。ボクにとっては、「ラブ&ピース」や「ノーニューク」などよりも、大切に切実で身近で具体的な祭りのテーマだったのだから。66日間の祭りの最後の週間、(天空の空間アートワークショップ)と題して手の施しようのない建物に一気にイノチを投入し始めた。一級建築士から突如とアーティストへと変貌した75歳の「松本剛太郎」が建築アートのキセキを起こし始めた!!!朽ちゆく古い屋根や柱のどうしようもない部分を除き、残せるところは残したまま、4日目に

は今昔融合の三階建てのイノチの木造風景が生まれ出た!!!そして5日目に、それを祝うかのように(史上最大級の台風)がやってきて、そのおかげさまで、ワークショップは保留のまま、祭りの最後の3日間を作業服を脱いでドラマチックにむかえることができたのだ。

2017年9月18日(敬老の日)、祭りの最終日、まだ未完成のままのこの三階建てのイノチの木造風景の一番上から、沢山のお祝いの紅白のお餅が投げ放たれた。そのあと、「私、元気になりました!!!」と沢山の人の前で元気宣言してくれた(麻由)ちゃんの美しかったこと。イノチが注がれ刻々と生き始めた建物、元気いっぱい笑顔で蘇った彼女、それらの存在感染力の渦中、右脳だけで生きている車いすの息子(由太)ゆうたくんと共にひょうたん三味線の(もんちゃん)がイノチガケで熊本からやってきて、「あかるい兆しがなんともいえない」「宇宙のだいじょうぶ」を立て続けに唄ってくれたのだから。

1991年以来、アホーのように毎朝飲み続けていた(おしっこ)を、8月4日の朝、突如と「きょうからおしっこは止め!!!」という強い決断が天から降りてきて、止めた。そして、この日の午後、ボクとおなじくらい長く飲尿していた旧友「植松」さんが、70歳でイノチの幕を閉じてしまった。一ヶ月間、水だけで断食していた只中、愛妻はるかがお見舞いに持っていった(桃)を「おいしい!おいしい!!!おいしい!!!」となんともいいながら、あ!!!!と逝ってしまった。

66日間の祭りを貫くように、毎週月曜日、9回(チャクラYOGA)を連鎖展開してくれた魅惑の「ななえ」先生。彼女は(たま)の大ファンだった。元(たま)の「知久」さんが、偶然だか必然だか当然、最初の一回目と最後の9回目に、仕組まれたように突如と現れて彼女の前で演奏してくれたキセキ風景。

ボクとおない年の(いとうたかお)のライブシーンで、女神たちがせっせと太一やで縫った手作りの旗を天空めがけて飾った瞬間、あ!!!!と巨大な虹が出現した!!!。スマイルマークの巨大な虹が天空に描かれた。

子どもたちが唄っているよ
聴いたことも無い メロディーで
無分別の神様の 無差別な愛が
今日も 降りそぐ

(いとうたかお、の歌詞の一部)

ボくらがこの世に誕生した瞬間、善悪美醜上下左右前後を超えて、ボくらのために全てが目の前に用意されていた。水、空気、空、山、町、国家、神社、お金、温泉、などなど、自分のイノチが花開くために、自分では作れない全てが(そとなるうちゅう)から用意されていた。そして祭りは、自分の(うちなるうちゅう)から湧き起り、自分がさらに崩壊飛翔展開してゆくために、他のイノチをも巻き込むイノチの渦の目となってゆく、神事の渦巻き。

祭りの最終日イヴ、9月17日のライブは、東京から独りでやってきた「おちょこ」(国分



寺エクスペリエンス)だった。彼女の最後の曲『世界のおかあさん』で、ボクを含めて何人もの人たちが涙していた。そして、その涙をうけとめるかのように、祭り会場全体をクリエイターアートで飾ってくれた天才アーティスト「みやげのりこ」、宇宙人と遭遇してスポーツ世界から、あ!!!!とアートの世界に変身した魅惑の「小川千夏」(先月号の表紙の絵の作者)のうちゅう作品群。この女神たちの時空を超えた(うちゅう感染力)絶大!!!

愛妻はるかを含めて(世界のおかあさん)や(女神たち)にこの世の全てをお任せして、ボクは今、淡々と黙々と(おもしろくて、おかしくて、ハッピーになれる)日常生活者。たいせつな大切な、いちにち一日の日常生活。朝から寝るまでの一日丸ごとが(神事)のような日常生活。そして眠ってしまえば、(HAVE A NICE DREAM!!!)

まだまだ(メルトUP)、連鎖展開中、どこへむかってゆくのかわくわくドキドキのころんより



←7.15 オープニングの日に歌う知久寿焼さん。

↑祭り最終日5.18の大団円

↑最終日の熊谷門ちゃんライブ「明るいきざし」♪